令和８年度　養護教諭　　（B—22）

（問題用紙は，全部で６枚である。）　　（70分）

〔注意〕解答はすべて別紙の解答用紙に記入すること。

1　「児童生徒等の健康診断マニュアル」（平成27年度改訂　公益財団法人日本学校保健会）の内容について，次の各問いに答えなさい。

(1)　児童生徒等の健康診断は，学校教育法及び学校保健安全法の規定に基づいて行われる。空欄（　①　）～（　⑬　）に当てはまる語句を，それぞれ答えなさい。

（　①　）法

第12条

学校においては，別に法律で定めるところにより，幼児，児童，生徒及び学生並びに職員の健康の（　②　）を図るため，健康診断を行い，その他その保健に必要な（　③　）を講じなければならない。

学校保健安全法

（目的）

第１条

この法律は，学校における児童生徒等及び職員の健康の（　②　）を図るため，学校における保健管理に関し必要な事項を定めるとともに，学校における（　④　）活動が（　⑤　）な環境において実施され，児童生徒等の（　⑤　）の確保が図られるよう，学校における（　⑤　）管理に関し必要な事項を定め，もつて学校（　④　）の円滑な実施とその（　⑥　）の確保に資することを目的とする。

（児童生徒等の健康診断）

第（　⑦　）条

学校においては，（　⑧　）に，児童生徒等の健康診断を行わなければならない。

２　学校においては，必要があるときは，（　⑨　）に，児童生徒等の健康診断を行うものとする。

第（　⑩　）条

学校においては，前条の健康診断の結果に基づき，疾病の予防処置を行い，又は（　⑪　）を指示し，並びに（　⑫　）及び（　⑬　）を軽減する等適切な（　③　）をとらなければならない。

(2)　学校における健康診断には，大きく２つの役割がある。それぞれの役割について説明しなさい。

(3)　次の文章は，「脊柱及び胸郭の疾病及び異常の有無並びに四肢の状態」の検査の実際に関する文の抜粋である。空欄（　①　）～（　⑥　）に当てはまる語句を，それぞれ答えなさい。

準備

（　①　）における観察の結果，学校に提出される（　②　）票の整形外科のチェックがある項目を整理する。これに加え日常の（　③　）の情報を整理する。可能であるならば，養護教諭は，（　④　）やクラブ活動の担当者と連携し，（　②　）票においてチェックがある項目の観察を健康診断前に実施し，情報を整理する。

方法

１　養護教諭は（　②　）票，学校での日常の（　③　）等の整理された情報を，健康診断の際に（　⑤　）に提供する。

２　提供された（　②　）等の情報を参考に，側わん症の検査を行う。四肢の状態等については，入室時の（　⑥　）・歩行の状態に注意を払い，伝えられた（　②　）でのチェックの有無等により，必要に応じて，留意事項を参考に，検査を行う。

(4) 次の①～⑤の文章は，整形外科関連において，健康診断を実施する際に，念頭に置いた方がよい疾病及び異常等について記述したものである。それぞれの説明に当てはまる疾患・障害名を答えなさい。

① 成長期において，過度な腰椎伸展を繰り返し行うスポーツにより椎骨に力学的ストレスが加わって生じる疲労骨折で，腰椎下位，特に第５腰椎に生じることが多く，成人となっても腰痛の原因となる。

② 成長期では野球で上肢を過度に使うことによって肘関節及びその周囲の障害が起こりやすく，骨や軟骨に発生する障害である。障害部分を押さえると痛みがあり，肘を動かすと痛みがあることが多い。

③ 大腿骨頭に栄養を送る血液の流れがなんらかの原因によって悪くなり，骨頭が一時的に壊死を起こす疾患である。股関節の痛みと跛行がみられる。発症は３～12歳頃であるが，最も頻度が高いのは４～８歳頃で，男子に多く見られる。

④ 生後の検診で繰り返しチェックや保育指導が行われるため，学校における健康診断において初めて見つかることはほとんどない。脱臼していても，子供の頃は痛みが無いことが多いので，歩き方や脚長差に注意しなければならない。

⑤ 膝蓋骨の下方（脛骨結節）に疼痛と腫脹を生じる。その発生にはランニング，ジャンプ，キック，シュートなどの動作を伴うスポーツ活動が関係している。膝を伸ばす動作は，大腿四頭筋が収縮して，この部分を引っ張ることで起こる。この部分は成長期ではまだ軟骨の部分が多くて弱いため，繰り返し引っ張られるために骨や軟骨の一部が剥がれる。発症は概ね10～14歳である。

2 「子どもの心のケアのために―災害や事件・事故発生時を中心に―」（平成22年７月　文部科学省）の内容について，次の各問いに答えなさい。

(1) 次の文章は，災害や事件・事故発生時における子どものストレス症状の特徴について説明したものである。空欄（ ① ）～（ ⑩ ）に当てはまる語句を，下のア～ネからそれぞれ１つずつ選び，記号で答えなさい。

> 災害等に遭遇すると，（ ① ）や喪失体験などの（ ② ）的ストレスによって，心の症状だけでなく（ ③ ）の症状も現れやすいことが子どもの特徴である。また，症状は（ ② ）的ストレスの種類・（ ④ ），ストレスを受けてからの時期によって（ ⑤ ）する。そのようなストレス症状には，情緒不安定，体調不良，睡眠障害など年齢を問わず見られる症状と，（ ⑥ ）によって異なる症状が含まれる。
>
> 幼稚園から小学校低学年までは，腹痛，嘔吐，食欲不振，頭痛などの（ ③ ）症状が現れやすく，それら以外にも興奮，混乱などの（ ⑦ ）や（ ⑧ ）上の異変（落ち着きがなくなる，理由なくほかの子どもの持ち物を隠す等）などの症状が出現しやすい。
>
> 小学校の高学年以降（中学校，高等学校を含む）になると，（ ③ ）症状とともに，元気がなくなって引きこもりがちになる（（ ⑨ ）状態），ささいなことで驚く，夜間に何度も目覚めるなどの症状が目立つようになり，（ ⑩ ）と同じような症状が現れやすくなる。

ア　精神	イ　安定	ウ　躁うつ	エ　場面	オ　状況	カ　内容
キ　男女	ク　身体	ケ　不安	コ　恐怖	サ　思考	シ　先天性
ス　幼児	セ　青年	ソ　うつ	タ　発達段階	チ　学年	ツ　心理
テ　変化	ト　行動	ナ　大人	ニ　情緒不安定	ヌ　ASD	ネ　PTSD

(2) 次の各文は，危機発生時における健康観察の進め方について説明したものである。下の各問いに答えなさい。

> ・危機に直面したことによる【　X　】問題の早期発見・早期（　ア　）を的確に行うためには，日ごろから，きめ細やかな健康観察を実施する必要がある。
> ・災害や事件・事故発生時における子どものストレス症状の特徴を踏まえた上で，健康観察を行い，子どもが示す心身の（　イ　）を見過ごさないようにする。
> ・災害や事件・事故発生時においては，日ごろから抱えている【　X　】問題が（　ウ　）化しやすいので，そのような子どもに対しては状態の変化などに留意して健康観察を行う。

① 空欄【　X　】に当てはまる語句を答えなさい。

② 空欄（　ア　）～（　ウ　）に当てはまる最も適当な語句を，それぞれ答えなさい。

3　災害時の精神保健に関する次のア～オのうち，正しいものを１つ選び，記号で答えなさい。

ア　PTSD（心的外傷後ストレス障害）は，とてもショッキングで恐怖を伴うような状況で，大切な人を亡くしたときにのみ認められる反応である。

イ　災害や事件・事故などが契機として PTSD となった場合，それが発生した月日になると，いったん治まっていた症状が再燃することがあり，アニバーサリー効果やアニバーサリー反応と呼ばれている。

ウ　トリアージとは，災害時の精神科医による精神療法である。

エ　急性ストレス障害（ASD）は，災害発生後１か月以上が経過してから初めて被災者に現れる精神症状である。

オ　DPAT とは，厚生労働省に設置する災害時の情報センターである。

4　次の文章は，「学校等における食物アレルギー対応の手引き」（平成29年３月　京都府教育委員会）からの抜粋である。空欄（　①　）～（　⑥　）に当てはまる語句をそれぞれ答えなさい。

第６章　災害時を想定した準備

（中略）

1　食物アレルギーを有する児童生徒の確認及び対応

食物アレルギーを有する児童生徒の一覧や（　①　）の取組プラン等を災害時に持ち出せるように準備します。

2　緊急薬やエピペン®の管理

学校で児童生徒の緊急薬やエピペン®等を預かっている場合，緊急時にすぐに持ち出すことができるよう，（　②　）場所を決め，教職員の間で共通理解しておくことが重要です。複数の児童生徒の預かりがある場合には，氏名や（　③　）が分かるように（　②　）する必要があります。

（　④　），学校医，学校薬剤師の指導のもと，管理について（　⑤　）と十分に協議しておく必要があります。

3　災害時緊急カードや緊急時（災害時）のおねがいカード

（　⑥　）先で，支援者にどのようなアレルギーの子どもがいるのかわかるように，（　⑤　）に対して，災害時緊急カードや緊急時（災害時）のおねがいカード等をあらかじめ作成しておくよう薦めておきましょう。

5　次の文は，「保健室経営計画作成の手引」（平成26年改訂　公益財団法人日本保健会）からの抜粋である。空欄（　ア　）～（　キ　）に当てはまる語句を，それぞれ答えなさい。

⑵　保健室経営計画の必要性

保健室経営計画の必要性は，次のとおりである。

①　学校教育目標や（　ア　）目標の具現化を図るための保健室経営を，計画的，組織的に進めることができる。

②　児童生徒の健康（　イ　）の解決に向けた保健室経営計画（課題解決型）を立てることによって，児童生徒の健康（　イ　）を全教職員で共有することができる。

③　保健室経営計画を教職員や（　ウ　）等に周知することによって，理解と協力が得られやすくなり，効果的な連携ができる。

④　保健室経営計画を立てることによって，養護教諭の職務や（　エ　）を教職員等に啓発していく機会となる。

⑤　保健室経営計画の（　オ　）評価及び他者評価（教職員等）を行うことにより，総合的な評価ができるとともに（　イ　）がより明確になり，次年度の保健室経営に生かすことができる。

⑥　養護教諭が（　カ　）の場合には，お互いの活動内容の理解を深めることができ，効果的な連携ができる（計画は一つ）。

⑦　（　キ　）による引き継ぎが，円滑に行われる。等

6 「薬物乱用防止教室マニュアル―令和５年度改訂―」（令和６年３月22日　公益財団法人日本学校保健会）について，次の各問いに答えなさい。

(1) 次の①～⑤の文章について，内容が正しいものを○，誤っているものを×としてそれぞれ答えなさい。また，内容が誤っている場合はその箇所を解答欄に抜き出し，正しい内容になるよう訂正しなさい。

① 薬物とは，生体に対して何らかの身体的・精神的作用を示す化学物質の総称として使われる。したがって，法規制されている麻薬や覚醒剤，嗜好品とされている酒類やたばこ，病気の治療や予防に使われる医薬品などすべてが薬物である。

② 薬物乱用とは，薬物を社会的許容から逸脱した目的や方法で自己使用することであり，乱用は，回数の問題である。

③ 薬物依存とは，薬物乱用の繰り返しの結果，その薬物の使用に対する自己コントロールを失った状態を指すのであって，言動の異常や身体的異常を指すわけではない。

④ 身体依存とは，薬物の効果がなくなってくると，その薬物をまた使いたいという渇望が湧いてきて，それをコントロールできずに薬物を使ってしまう状態であり，薬物探索行動が認められる。

⑤ アルコールの一気飲みや睡眠薬，抗不安薬などの医薬品の過量服薬は，慢性中毒を引き起こす可能性のある乱用である。

(2) 次の①～③の文章は，我が国の薬物事犯による検挙人員の増減傾向やその理由を述べたものである。それぞれの説明に当てはまる薬物名をそれぞれ答えなさい。

① 我が国において２番目に検挙人員が多い薬物である。近年，増加傾向を示しており，今まさに乱用期の渦中にあるといえる。特徴として，他の規制薬物に比べて若年層の割合が高いことが挙げられる。中・高校生においても増加傾向を示している。

② 我が国で検挙人員が最も多い薬物であり，第二次世界大戦以降変わらず最も多い。我が国においては，乱用が広がった時期があり，平成７年から始まり平成９年をピークとする第三次乱用期は，沈静化しているものの依然として年間６千人以上の検挙人員が認められる。なお，第三次乱用期は，中・高校生のファッション感覚による乱用が急増したと指摘されていたが，令和４年の検挙人員は中学生１人，高校生12人となるなど明らかな沈静化が認められる。

③ 規制薬物と類似した化学物質を混入させた植物片等で，体内摂取により，規制薬物と同様の有害性が疑われる物をいい，この薬物事犯による検挙人員のうち，指定薬物の所持等による検挙人員は，法規制により減少傾向であったが，令和４年の検挙人員は275名（うち，20歳未満の者の検挙人員17名）と前年度から２倍以上に増加しており，乱用防止の取組が必要である。

(3) 次の文章は，「薬物乱用防止教室マニュアル」（令和５年度改訂）第１章　はじめに　５　薬物乱用防止の基本的な考え方　２　学校の特徴と薬物乱用防止　からの抜粋である。空欄（　①　）～（　⑥　）に当てはまる語句を，下のア～スからそれぞれ１つずつ選び，記号で答えなさい。

> 学校教育は，（　①　）グループのみを対象とするのではなく，学校や学年あるいは学級全員の児童生徒を対象とする。したがって，学校における（　②　）では薬物乱用の問題を広い視野で捉える必要がある。（　②　）では児童生徒が身近な生活における健康に関する（　③　）を身に付けることや，必要な（　④　）を自ら収集し，適切な意思決定や（　⑤　）選択を行い，積極的に健康な生活を実践することのできる資質・能力を育成することが目標となり，この目標の達成が薬物乱用問題の（　⑥　）的解決につながる。

ア　健康教育　　イ　技能　　ウ　行動　　エ　学習　　オ　ハイリスク　　カ　段階
キ　ローリスク　　ク　知識　　ケ　個別　　コ　薬物乱用防止教室　　サ　系統　　シ　本質
ス　情報

7　次の文章と図は，「保健教育における個別指導の考え方，進め方」（公益財団法人日本学校保健会　令和６年３月）第１章　学習指導要領に基づく保健教育　１　保健教育の考え方　からの抜粋である。空欄（　①　）～（　④　）に当てはまる語句を，それぞれ答えなさい。

⑶　保健教育の体系

保健教育の体系については小学校，中学校，高等学校でほぼ共通しているが，ここでは中学校を取り上げて図３に示す。生徒が心身の健康の保持増進を図っていく資質・能力を身に付け，生涯を通じて健康・安全で活力ある生活を送るための基礎を培うためには，保健体育科，特別活動，総合的な学習の時間，その他関連する教科等などの（　①　）とともに，日常生活における指導及び子供の実態に応じた（　②　）についても着目し，両者を関連させながら進めていくことが重要である。

この点に関わって，中学校学習指導要領第１章総則第４の１(1)においては，「主に集団の場で必要な指導や援助を行う（　③　）と，個々の生徒の多様な実態を踏まえ，一人一人が抱える課題に個別に対応した指導を行う（　④　）の双方により生徒の発達を支援すること」が明示されており，小学校及び高等学校の総則においても同様の記述がなされている。

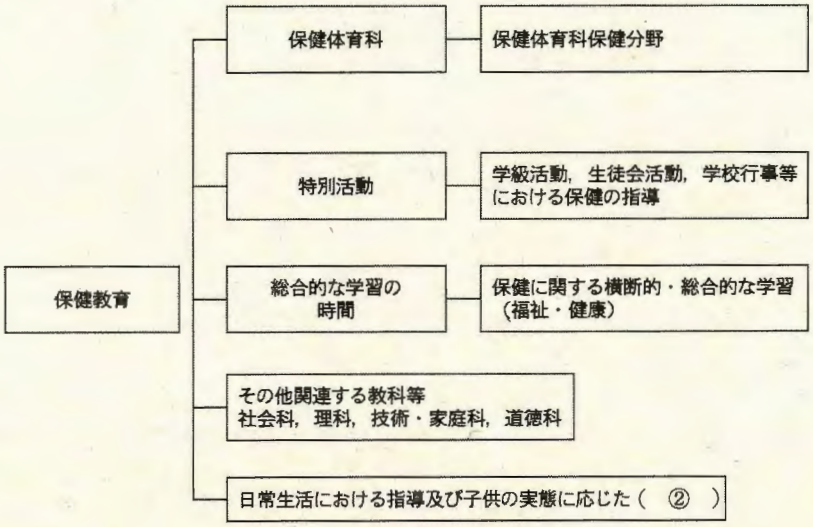


図３　保健教育の体系（中学校）

8　「教職員のための子供の健康相談及び保健指導の手引―令和３年度改訂―」（令和４年３月　公益財団法人日本学校保健会）の内容について，次の各問いに答えなさい。

⑴　学校保健安全法において，学校における健康相談の実施について規定しているのは第何条か。数字で答えなさい。

⑵　健康相談の目的を３つ説明しなさい。

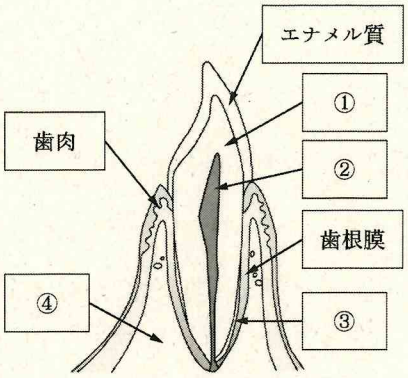
⑶　健康相談実施上の留意点について，空欄（　①　）～（　⑦　）に当てはまる語句を，それぞれ答えなさい。

- （　①　）に健康相談を位置付け，計画的に実施する。また，状況に応じて計画的に行われるものと随時に行われるものとがある。
- 学校医・学校歯科医・学校薬剤師等の（　②　）的見地から行う健康相談・保健指導の場合は，事前に打合せを十分に行い，相談の結果について（　③　），学級担任等と共通理解を図り，連携して支援を進めていくことが必要である。
- 健康相談の実施について周知を図るとともに，児童生徒，保護者等が相談しやすい（　④　）を整える。
- 相談場所は，相談者の（　⑤　）が守られるように十分配慮する。
- （　⑥　）支援が必要な者については，校内（　⑦　）及び必要に応じて関係機関と連携して実施する。

9　歯と口について，次の各問いに答えなさい。

(1)　右の図は，口腔内における下顎の前歯の断面図である。

①～④の部位の名称を正しく組み合わせているのはどれか。次のア～オから１つ選び，記号で答えなさい。



	①	②	③	④
ア	セメント質	歯槽骨	歯髄	象牙質
イ	象牙質	歯髄	歯槽骨	セメント質
ウ	象牙質	歯髄	セメント質	歯槽骨
エ	セメント質	歯槽骨	象牙質	歯髄
オ	歯髄	セメント質	象牙質	歯槽骨

(2)　次の事例の応急手当について，説明しなさい。

〈事例〉休み時間，追いかけっこをして遊んでいたところ，曲がり角で友達と出合い頭にぶつかり，転倒した。その衝撃で，顔面を床に強打し，前歯が折れた。

令和８年度　養護教諭　　（B－22）

解　答　用　紙　（70分）

試験区分	養護教諭	氏名	

受験番号		※

※印は記入しない

1	(1)	①		②		③		
		④		⑤		⑥		
		⑦		⑧		⑨		
		⑩		⑪		⑫		
		⑬						
	(2)							
	(3)	①		②		③		
		④		⑤		⑥		
	(4)	①		②		③		
		④		⑤				
2	(1)	①		②		③		
		④		⑤		⑥		
		⑦		⑧		⑨		
		⑩						
	(2)	①						
		②	ア		イ		ウ	
3								
4		①		②		③		
		④		⑤		⑥		
5		ア		イ		ウ		エ
		オ		カ		キ		

試験区分	養護教諭	氏名	

受験番号		※

※印は記入しない

6	(1)	正誤（○×）		訂正				
		①		→				
		②		→				
		③		→				
		④		→				
		⑤		→				
	(2)	①		②		③		
	(3)	①		②		③		
		④		⑤		⑥		
7	①			②		③		
	④							
8	(1)	第　　条						
	(2)							
	(3)	①		②		③		
		④		⑤		⑥		
		⑦						
9	(1)							
	(2)							

令和８年度　養護教諭　　（B－22）

解　答　用　紙　　（70 分）

試験区分	養護教諭	氏名	
受験番号		※	

※印は記入しない

1	(1)	①	学校教育	②	保持増進	③	措置	1点×13
		④	教育	⑤	安全	⑥	成果	
		⑦	13	⑧	毎学年定期	⑨	臨時	
		⑩	14	⑪	治療	⑫	運動	
		⑬	作業					
	(2)	家庭における健康観察を踏まえて，学校生活を送るに当たり支障があるかどうかについて疾病をスクリーニングし，健康状態を把握する役割						2点×2
		学校における健康課題を明らかにして健康教育に役立てる役割。						
	(3)	①	家庭	②	保健調査	③	健康観察	1点×6
		④	体育	⑤	学校医	⑥	姿勢	
	(4)	①	腰椎分離（すべり症）	②	野球肘	③	ペルテス病	1点×5
		④	発育性股関節形成不全（先天性股関節脱臼）	⑤	オスグッド病			
2	(1)	①	コ	②	ツ	③	グ	1点×10
		④	カ	⑤	テ	⑥	タ	
		⑦	ニ	⑧	ト	⑨	ソ	
		⑩	ナ					
	(2)	①	心身の健康					2点
		②	ア 対応	イ	サイン	ウ	表面	1点×3
3	イ							2点
4	①	個別		②	保管	③	使用方法	1点×6
	④	主治医		⑤	保護者	⑥	避難	
5	ア	学校保健	イ	課題	ウ	保護者	エ	役割
	オ	自己	カ	複数配置	キ	異動		1点×7

試験区分	養護教諭	氏名	

受験番号		※

※印は記入しない

			正誤（○×）	訂正					
6	(1)	①	○	→					
		②	×	回数の問題である → 回数の問題ではなく，1回でも乱用である					
		③	○	→					
		④	×	身体依存 → 精神依存					2点×5 両方正答で
		⑤	×	慢性中毒 → 急性中毒					
	(2)	①	大麻	②	覚醒剤	③	危険ドラッグ		2点×3
	(3)	①	オ	②	ア	③	ク		1点×6
		④	ス	⑤	ウ	⑥	シ		
7	①		集団指導	②	個別指導	③	ガイダンス		
	④		カウンセリング						1点×4
8	(1)		第 8 条						2点
	(2)		①児童生徒の心身の健康に関する課題について，児童生徒や保護者等に対して，関係者が連携し相談等を通して課題の解決を図る。 ②学校生活によりよく適応していけるように支援してく。 ③心身の健康課題を解決する過程で，自分自身で解決しようとする人間的な成長につながることから，健康の保持増進だけではなく教育的意義が大きい。						3点
	(3)	①	学校保健計画	②	医療	③	養護教諭		
		④	環境	⑤	プライバシー	⑥	継続		
		⑦	組織						1点×7
9	(1)		ウ						1点
	(2)		・けがの発生状況を聞き取り、他の症状はないか（外傷，意識障害，痛み，歯のぐらつき）を確認し，止血する。 ・抜けたり，破折した場合は，その歯を探して乾燥させないように歯の保存液（冷たい牛乳でも代用可）に浸す。 ・口をぬるま湯で軽くすすぎ，汚れや血を流す。 ・歯の保存液につけた歯を持って歯科医院を受診する。（抜けてしまった場合には，歯根にはさわらない。可能な限り 30 分以内に処置できるようにすることが望ましい。） ・歯・口のけがを防止するための安全指導を行い，事故の再発の防止を図る。						3点